

安保反対 若者に寄り添おう

大学教員

(香川県 51)

安全保障関連法案に反対する抗議行動が全国であった8月30日、高松市の商店街で学生や若い社会人ら約20人が「安保法案アンケート」に取り組み、私も手伝った。法案への賛否を通行人に答えて頂き、パネルにシールを貼った。結果は賛成11人、反対65人、どちらとも言えない27人。反対が6割強だった一方で若者、中高年を問わず賛成の人もいた。議論もしたが、賛成派から感じたのは「自分には関係ない」という感覚である。

安倍晋三首相は、はっきりと「憲法を改正すれば徴兵制もありうる」と言っている。な

ぜならその方が、有権者が自分の問題と受け取るからだ。賛成の人も、自分や友人、恋人、子ども、孫らが当事者になるかもしれないと想像できるだろう。

私は東京の19歳の若者が書いた、7月18日の投稿「安保法案阻止 私の民主主義」がずっと心の中で響いている。「立憲主義国家の一員として、この法案に反対し、この法案を止める」「この国が自由を失ったとき、やはり私はその当事者だからだ」。私は法案反対集会でこの投稿を読み上げたこともある。

「私たちの声を聴いて！」と主権者である若者が立ち上がっている。彼ら、彼女らに寄り添おう。それが私の責任である。